



3-3 電子ジャーナルを利用しよう

電子ジャーナルは、オンラインで利用できる雑誌です。電子ジャーナルアクセスサービスでは以下が可能です。

- 名古屋大学で契約しているタイトル、一般公開されているタイトル(一部)をまとめて探せる
- 論文の本文へのリンクがある(契約タイトルの本文利用は学内からのアクセスに限る)
- 雑誌単位で探すことができる ※論文タイトルやキーワードからの検索は不可

冊子版の雑誌の検索は、電子ジャーナルアクセスサービスからは探せません。名古屋大学蔵書検索(OPAC)を使ってください([ガイドシート2-2「名古屋大学所蔵の雑誌を探す」](#)参照)。

<アクセス方法>

1. 附属図書館webページ [<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/>](https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/) を開く
2. 画面左側のクイックリンク[図書・雑誌を探す]または[論文・記事を探す]から、「電子ジャーナル」を選択する。
3. 「名古屋大学電子ジャーナル・アクセスサービス」が開くので、タブを選択し、検索する。

<検索画面>

- A. 雑誌名から検索: キーワードから、または電子ジャーナル名の頭文字から探す
- B. 巻・号・ページ・IDから検索
- C. 分野から検索
- D. 提供元から検索
- E. 電子ブックを探す

必ず確認!
次ページ<電子ジャーナルの公正利用>参照

<検索方法>

1. 検索語を入力し[検索]ボタンをクリックすると、条件に合致する一覧が表示される

ジャーナルの総数: 3 詳細表示に切り替える		1 ページ中1 ページ目を表示	検索例 名古屋大学電子ジャーナル・アクセスサービス 検索語句: Hydrocarbon Processing (雑誌名から検索、～を含む)
A ジャーナルタイトル	B 利用可能期間	C 提供元へのリンク	
Hydrocarbon processing [ジャーナルの変遷を見る]			
Hydrocarbon Processing [ジャーナルの変遷を見る]	1995年～最近1ヶ月 利用不可 2002/10年～	EBSCOhost Academic Search Premier ProQuest Central	

A. ジャーナルタイトル

- B. 利用可能期間: 名古屋大学で利用できる年・巻号が提供元ごとに表示されます。

探している巻号がすべて利用できるとは限りません。必ず確認しましょう。

例「1995年～最近1ヶ月利用不可」→ 1995年～最新号から1ヶ月前の号まで利用できる

「2002/10年～」→ 2002年10月に発行された号から最新号まで利用できる

- C. 提供元へのリンク: 出版社名やプラットフォームへのリンクです。

複数の提供元がある場合は複数表示されます。

【読みたい論文の情報が分かっている場合】

1. AのジャーナルタイトルをクリックするとDの(NU Link)が表示される
2. 該当論文の発行年・巻号・開始ページを入力し[GO]をクリックする
- ※ 読みたい論文の巻号が利用できる提供元かどうか確認してから入力してください
3. 該当論文を探し本文(PDFファイル)をダウンロードする



【STEP1】
利用可能年を確認し書誌事項を入力

【STEP2~3】
STEP1で本文が見つからなかった場合に試す



【電子ジャーナル全体をざっと眺めたいとき】

1. Cの提供元へのリンクをクリックすると、該当電子ジャーナルのサイトへ遷移する
- ※ 読みたい年代の巻号が利用できる提供元かどうか確認してからクリックしてください
2. 発行年・巻号選択やキーワード検索などで論文を確認する

＜OPACで電子ジャーナルを探す＞

名古屋大学蔵書検索(OPAC)で雑誌を検索した際、「書誌詳細」画面で「本文一覧」のリンクが表示されれば、その雑誌は冊子版と電子ジャーナルを両方利用できます。

※ OPACでは、冊子版がなく電子ジャーナルのみの雑誌は検索できません。



検索例

名古屋大学蔵書検索(OPAC)
検索語句: Applied physics. A,
Materials science & processing

＜電子ジャーナルの公正利用＞

名古屋大学で契約している電子ジャーナルは、提供元と名古屋大学との間で利用許諾契約が交わされています。契約に違反する利用がなされた場合、**一個人の違反であっても、大学全体で電子ジャーナルが利用できなくなります。**一般公開されている電子ジャーナルであっても同様です。利用の際は十分注意しましょう。

- データの大量ダウンロードはしないでください。大量の論文を手動で連続的にダウンロードする行為だけでなく、文献管理ツールなどのプログラムによる自動データ収集行為も不正利用とみなされます。
 - 個人がダウンロードしたデータを第三者に配布・販売することは禁止されています。
 - ダウンロードしたデータは、個人の調査・研究のために利用してください。
- ※ ダウンロードとは、オンライン上のファイルを「保存すること」ではなく、「開くこと」を指します。